

# エコネットあさか

2016.12



再構築会議



フリーマーケットの賑わい



フリーマーケット正面ディスプレイ



(株)岩井化成プラスチック再生工場研修



- 2 協議会16年目の大改革
- 3 エコ主張／「リボベジ」栽培の勧め
- 4 循環型リサイクル岩井化成研修
- 5 フリーマーケットを開催して
- 6 環境大学予告／全4回再構築会議について
- 7 食品ロスをなくす活動／他
- 8 チラシ／協議会からお詫びと訂正／お休みカレンダー



3階、制服・文房具等リサイクル

# 協議会16年目の大改革

廃棄物問題を基調に地球温暖化・低炭素社会代替エネルギーなど総合的環境問題の啓発活動へ

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会 会長 川野 紀代美

協議会では平成12年7月、リサイクルプラザ開館から16年間リサイクルに特化し廃棄物を減らす活動を続けてきた。この間、環境問題は大きく変わりしてきたことは疑いの余地がない。今年、我々が体験した異常とも思われる気温上昇、熱中症で亡くなられた方も例年と比べようがないほど多かった。また地震をはじめゲリラ豪雨・台風・竜巻・川の氾濫と気象庁始まって以来の出来事が続き、南から北まで長い日本列島を例外なく襲った。要するに地球温暖化である。北極の熊が、少なくなくなりた氷上で餌にありつけず激瘦せの姿を映像で見せつけられたり、シベリアの永久凍土が溶けて地中から有害物質が出たとか枚挙にいとまがない。毎朝天気予報でPM2.5の値が報道されるが、隣国の大気汚染に翻弄されている。

わが国も例外ではない。限られた資源と言われた「石油」もいまだに潤沢に出回り、今ではプラスチックの恩恵を嫌というほど受けている。日常の食品容器から医療機材等々あらゆる物に、なくてはならない材料として使用される。しかし、一旦ゴミと化したプラスチックは人間だけでなく地球上の生き物全体に大きな負荷を与える。

東京湾の「いわし」の80%がプラスチックのナノ粒子を飲み込んでいると言われ、北太平洋では海洋動物が痛ましい死に方をしているとも。まだ地球上の全ての海洋で調査が終わっているわけではない。現実が起きていることは事実であろう。あれもこれも人間が原因を作っているわけで他人事ではない。

今、注目の築地移転先の豊洲も元をただせば、かつてゴミの島として大量のゴミで埋め立たた土地であり、テレビ映像で見せつけられた東京湾のゴミの島の周りはヘドロで周辺が見えない泥海水であつた。人間の叡智を持つてしても自然の力には勝てないであろう。

原発問題もしかりである。3・11から6年目を迎えても一向に解決されない負のゴミである。代替エネルギーに着々と切り替えられ希望へつながるか、まだ危うい気もあるのは私だけであろうか。しかし、太陽熱・水力・風力などCO<sub>2</sub>を出さない自然と共に生きたらこんな幸せはない。

民の協力参加が必要であり、それぞれの持てる力、叡智をぜひお貸しいただきたい。男女、老若を問わない、現状では働く人達は時間に縛られボランティアどころではない！

やりがいのあるこの活動をご理解いただき、新しい風をしてご参加いただきたいと心より願っている。私事であるが15年間、環境大学や交流などの場で、多くの学識先輩からいただいた諸々の示唆や専門知識は私の貴重な財産でもあり誇りもある。人との交わりの中から人生も豊かになると私自身は多くの方にすすめたい。

今更ではなく、これから的是非解決できない人間同士の紛争もある。環境問題を学ぶからこそ見えてくる大きな問題点を知ることもあるはずである。

そして環境問題だけでは解

決できない人間同士の紛争もある。環境問題を学ぶからこそ見えてくる大きな問題点を

協議会では前文に記したように環境問題全体を学習することにより、関連する問題を共通課題にプラザを発信基地として利用されたら、こんな価値ある素晴らしい活動はな

いはずである。今までの廃棄物減量啓発を決しておろそかにするものではないが、低炭素社会を構築するためには、今、トータルで学習する必要に迫られていると認識を新たにし、協議会事業を再構築したいと考え挑戦することに踏み切った。

これらの活動には多くの市民の協力参加が必要であり、他団体との交流や視察研修など幅広い活動ができる市民団体もある。

## 「焼却ごみ」の分別収集について考える

世界気象機関(WMO)がまとめた2015年の世界の主要な温室効果ガス濃度の年平均が、過去最高に上ったと発表された。

温室効果ガスの増加は地球規模の異常気象を招き、世界各地に台風・突風・高波で洪水の被害や南極の氷が溶け海面水位の上昇による砂浜の減少で、高潮のリスクが高まっている。

一方私達は温暖化防止に貢献する為、日常生活において出来るだけ不用な物は買わず、物を大事に使うことやリサイクルを心がけたり節電や健康の為にも外出時は車の利用は止め、自転車や電車・バス等の公共交通機関を利用するなどの工夫をしている。しかし、観点を変えて温暖化防止のため温室効果ガス発生抑制について家庭から排出される一般ごみの焼却処理について考えると、焼却処理で発生するCO<sub>2</sub>、燃料の削減に努めることやごみ自体の資源化・処理方法の多様化等を検討す

べきではなかろうか?廃棄物には、種々雑多な物が含まれており、「混せれば『ごみ』」「分ければ資源」と言われているように「ごみの資源化」をはかる為には、リサイクルの目的に応じて収集され処理することが必要である。現状行われている収集では、一般ごみやプラスチック製品は燃やすごみとして生ごみと一緒に焼却されている。焼却温度は、生ごみは800℃～950℃が適温とされているが、容器包装プラスチックや製品プラスチックを生ごみと一緒に焼却すれば約1000℃～1200℃前後で高温で焼却処理をしなければ温室効果ガスを減らすことはできない。このことは焼却炉に負担をかける。温室効果ガスを減するには徹底した分別収集を行い生ごみは焼却せずバイオガス化などに、又汚れた容器包装プラスチックや製品プラスチックはサーマルリサイクルとして焼却し、発電などに使いいかがな

のか?  
(吉田省二)

には、種々雑多な物が含まれており、「混せれば『ごみ』」「分ければ資源」と言われているように「ごみの資源化」をはかる為には、リサイクルの目的に応じて収集され処理することが必要である。現状行われている収集では、一般ごみやプラスチック製品は燃やすごみとして生ごみと一緒に焼却されている。焼却温度は、生ごみは800℃～950℃が適温とされているが、容器包装プラスチックや製品プラスチックを生ごみと一緒に焼却すれば約1000℃～1200℃前後で高温で焼却処理をしなければ温室効果ガスを減らすことはできない。このことは焼却炉に負担をかける。温室効果ガスを減するには徹底した分別収集を行い生ごみは焼却せずバイオガス化などに、又汚れた容器包装プラスチックや製品プラスチックはサーマルリサイクルとして焼却し、発電などに使いいかがな

## 食品廃棄物の削減にご協力を! 「リボベジ」栽培の勧め



下表は環境省推計による平成24・25年度「家庭系廃棄物」の排出量と処理状況である。(単位:万トン)

	総量	再生利用	焼却・埋立	可食部分とは ・食べ残し ・過剰除去 ・直接廃棄
平成24年度	885 (可食部分⇒312)	55	830	
平成25年度	870 (可食部分⇒302)	57	813	
差	△15	2	△17	

※年々排出量は減少しているが、更なる「減量」を目指して色々な施策が進められている。

- 加工食品の1／3ルール見直し(情報誌No.47号)
- 消費者に対して食料残渣の水切り徹底のお願い
- 賞味期限切れ直前の食品の有効活用(情報誌No.60・61号)
- 「リボベジ」への取り組み

リボベジとは「リボーン(再生)・ベジタブル(野菜)」の略で再生する野菜という意味。野菜の切れ端を使って再度食べられる状態に再生することで「いつでも・だれでも・どこでも」できるメリットがある。日常ご家庭で野菜を料理する時食べる部分と根っここの部分を切り分けるが、その根っこ(茎付)を捨てないで水の入った容器に入れておくと2～3週間ほどで再生栽培ができる。ひとつの根っこで2～3回再生できるというデータもあるとのこと。現在比較的失敗なく取り組める野菜は大根・豆苗・人参・白菜・レタス・ミツバなど。

ただし適した栽培時期もありそうなので要注意。

環境省も「野菜の無駄を減らす効果があり、ごみ問題に対する意識を変えることにもつながる」と活動の広がりに期待している。リボベジに取り組む自治体や学校なども徐々に増加し、条件や失敗しない作業方法も確立しつつある。ぜひ一度試してみたらどうでしょうか。(横山 敏)



# 循環型リサイクル岩井化成研修

リサイクル事業で

環境大臣賞を受賞！

青い空、空気も水も美しい環境に優しい地球に住みたい。国内の廃棄物は人口減と節約ムードで年々減少しているが廃プラスチックは過去50年で20倍に増え、今後も増加すると言われている。（プラスチック製品は安く手軽で便利なため消費者等に浸透拡大している）

リサイクル率は14%で紙50%、鉄くず90%と極端に低い。

株式会社岩井化成（茨城県坂東市 清水弘社長）は敷地四千坪、社員40名（外国人、高齢者、障害者）で24時間稼働。廃プラスチックの受け入れから商品（再生ポリ袋）製造と出荷を行う循環型リサイクル工場である。ポリエチレン再生加工機4台、インフレーション機11台、全自動製袋機2台はオーストラリアや日本製のものだ。

環境大臣賞を授与、受賞した清水弘社長によれば廃棄物の再生を通して住みよい環境作りを目指すのだとしていた。

廃棄物回収業者と連携して、キユーピー、ホンダ、サッポロ、旭化成等日本を代表する大企業約40社から発生する廃棄物を回収して紙、鉄くず、廃プラスチックに分別。岩井化成は、廃プラスチックのみを有料で仕入れている。

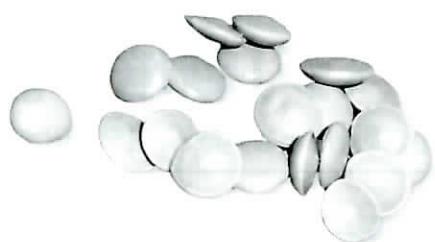
同社は廃プラスチックを再度加工機にかけて紙や鉄くずを除去。プラスチックのみを再度破碎ペレット化してインフレーション等にかけると再生ポリ袋が生産製造される。

同社は機械も優れており安心安全のもと高齢者、障害者、外国人が懸命に黙々と作業している姿が目にに入った。

一方廃プラスチックを焼却した場合、原料が石油のため焼却灰が紙、木材の2倍以上上のCO<sub>2</sub>を発生するが、再加工するだけで環境にも地球にも優しくなる。同社の環境政策は循環型リサイクル事業の功績を高く評価し28年度環境大臣賞を授与、受賞した。

近同業者が経営難や労働力不足等で倒産廃業が続いていることが紹介された。ただし岩井化成は清水社長以下優秀な社員の力で今後も発展、伸びる会社であることを確認し痛感しました。

（中新井 光治）



ペレット化したもの



全自动製袋機

# フリーマーケットを開催

11月6日（日曜日）リサイクルプラザの二階と三階を使い、フリーマーケットを開きました。天気にも恵まれ、沢山の出店者（32ブース）と来店者に来ていただきました。朝霞は、ごみを減らす工夫に3Rを進めています。リデュース（ごみになるものを減らす）・リユース（使った製品の再利用）・リサイクル（もう一度資源として生かして使う）

今回のフリーマーケットは、リユースになります。気に入って買ったものが小さくなりごみとして捨てる前の一工夫です。“他の人に利用してもらう”これがリユースです。

出店者の中の姉妹が「認知症になる前に身のまわりの整理整頓をして、まだ使える品々を持ってきました」と話をされていました。今現在、空き家問題・ごみ屋敷問題は、いずれもその背景には少子高齢化という課題があります。自分で意識をもって行動する。見習うべき方法です。

今回は我々リサイクルプラザ企画運営協議会でも、2ブースに講座で作った作品を販売しました。売上金65,000円はすでにユニセフ（国連児童基金）に贈りました。

皆さんの小さな工夫が、地球の大切な資源を守ることになるのです。

（高田 ちづ子）



# 今期(平成28年度)も、2月に環境大学を行います。昨年同様「ワークショップ」もあります。講師陣の話を乞うご期待!!

恒例の環境大学の時期がまもなくやってきます。地球温暖化はますます進んでいます。2015年度は温室効果ガス(CO<sub>2</sub>などの)濃度の年平均が、過去最高だったと報告されました。私たちが環境問題について考えなければならないと言うことは必須の時代に突入しています。

それを踏まえ、目まぐるしく変わる環境全般について、皆様と一緒に勉強してまいりたいと思います。

※受講に際し、スマホ・タブレット・パソコン(端末類)の使用は禁止、ただしボイスレコーダーは可能とさせていただきます。(保育あり)

第1回	平成29年2月1日(水) 10:00~12:00 開講式 テーマ:豊かな地球環境を未来に ~別の道を歩む勇気を~ 講 師:小川 真理子氏 レイチェル・カーソン日本協会／関東フォーラム代表
第2回	平成29年2月8日(水) 10:00~12:00 テーマ:再生エネルギーの今!を学ぶ ~コミュニティパワーの可能性~ 講 師:浅倉 孝郎氏 環境省環境カウンセラー 埼玉県環境アドバイザー
第3回	平成29年2月15日(水) 10:00~12:00 テーマ:『ワークショップ』持続可能な循環型社会を目指して ~わが国におけるごみ問題の現状と展望~ 講 師:松波 淳也氏 法政大学経済学部 教授
第4回	平成29年2月22日(水) 9:00~16:30頃 閉講式『フィールドスタディ』 研修先:「埼玉県大久保浄水場」「荒川水循環センター」 ※大型バスにてプラザ前から出発。 ※昼食後循環センター会議室にて修了式

※フィールドスタディは終了時間が変更になる場合があります。ご了承ください。

## 全4回再構築会議について

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会は朝霞市と「協働」で市の環境改善(廃棄物の減量等)のため、あらゆる活動を自主的に行うボランティア団体です。

リサイクルプラザを拠点として、ごみ減量啓発や循環型社会の構築を目指して各種講座、環境大学、学習のための市外研修、情報誌の作成や配布、種々のイベント等多範囲にわたり企画立案し活動を続けてまいりました。

16年目を迎えた今、目まぐるしい社会の変化・高齢化や諸事情によるスタッフの減少もあり、今後の協議会の継承を考えていくために会長提案のもと「協議会再構築」に向けた有識者会議を全4回(5、6、7、9月)開催いたしました。

外部より

法政大学経済学部教授 松波 淳也氏  
蓮田白岡環境センター主査 二俣 正和氏

をお招きし、市の担当者も含めこれまでの協議会の歩みの中における問題点をふまえ『求めるべき協議会の在り方』について多くの検討課題について熱心な意見交換が行われました。

既にごみ問題だけでなく低炭素社会を迎え変化を続ける中で「リサイクルプラザ→エコプラザ」「リサイクルプラザ企画運営協議会→エコプラザ企画運営協議会」等時代に合った名称への変更。従来型のリサイクル(モノ作り)だけでなく市と協力して人材補強や事業拡大、活性化に努める事等。そのためには規約の見直し、企画全般や組織の変更も必要となります。また、環境大学など市民の学習の場は、土・日曜日の開催に努め、他市との交流も更に広げて行ければとの意見もありました。

検討会を重ねるたびに沢山の問題は出てきましたが、改めて市との「協働」について考える良い機会となりましたし、連結の大切さも痛感しました。時間はかかると思いますが、スタッフの増員や新しい企画運営協議会への移行を楽しみにしています。  
(杉長 啓子)

## 食品ロスをなくす活動

ど食べなかつたりする食品をゴミとしないで必要とする方に食べてもらおうというものである。

本当に必要な人の手に渡るのか、いたずらをされる心配はないのか、何があつた場合の責任は…といった議論を経て、賞味期限が一ヶ月以上あるのを持つてきていただけ、人目を気にせずにほしい人が持つていけるような場所に説明文とともに置いておくことにした。

一般に食品ロスという場合、製造の際に出るものや流通・販売での賞味期限近くなつての廃棄が問題とされてきた。最近では、それらの食べるにはなんら支障のないものを施設やこども食堂で使ってもらう運動も浸透してきているが、この場合ある程度と安定性が必要になつてくる。

私たちはそれとは違い、家庭で食べられないまま賞味期限を迎えてしまう食品をどうにかしたいとの思いからこの活動を始めた。根底には「もつたいない」がある。

買ったものの、そのままになつたり、もらつたけれども、いつも同じ人が持つていくのではとい



う意見もあつたが、それは本当に必要としている人だろうから、いい使われ方だということになつたのだった。

館内で一番人目の多い所で、必要な人が何度も持つていくことがはたしてできるのかはわからない。

気兼ねなく持つて行つてただけているのならないのが…気になるところではある。

(藤井 由美子)

## 制服リサイクルを実施して分かつたこと

協議会で制服リサイクルを決めたあと、すぐに大手の新聞社が制服について特集を組んでいました。制服の要・不要論から、製造業者のコストの問題まで多様な意見が寄せられ、多くの情報を得ました。

協議会は「もつたいない」の精神で始めた事業ですが、社会問題として日本人として考えなければならない問題・課題を知らされました。始めて

みて協議会の趣旨に共鳴され制服や柔道着、ラングセルなど多くいただいています。制服の要・不要論はこの際別と

して、現実に転勤族や子ども

の多い家庭の負担減のためにリサイクルパンクは必要と思

(対馬 千代枝)

制服その物のデザインやパターン、色など安くできる方策を学校側も考える必要があるのではないか。

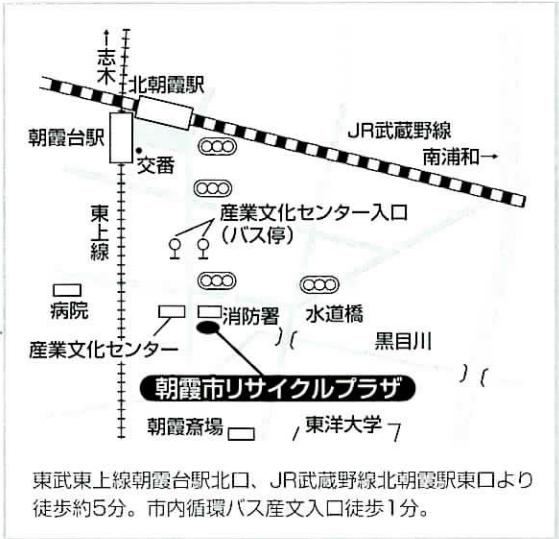
制服リサイクルは必要と思

い知られています。

家庭での経済的負担を考え、文部科学省も「保護者の経済的負担が過重にならぬよう」と通知しています。学

校が対応できないとしても、PTAが主体になりリサイク





## 2017年 お休みカレンダー

### ◆1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	(21)
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

### ◆2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	(18)
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

### ◆3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	(18)
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

印は休所日・毎週木曜日・祝日（木曜日が祝日とかさなった日は、翌日も休み）・年末年始  
○印はリサイクル家具の抽選日です。

（毎月第3土曜日…第3土曜日が祝日の場合は翌日の日曜日）

利用時間：午前9時～午後5時  
(リサイクルショップは午前10時～午後4時まで)

発行 平成28年12月25日(年4回)

朝霞市リサイクルプラザ

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会

〒351-0033 朝霞市大字浜崎664番地の2

☎048-486-0222

E-mail eko@city.asaka.saitama.jp

## 市内小学校全校(10校)へ廃油から作った石けんを配布



学校給食・保育園給食などの廃油から手作りした「廃油石けん」を市内小学校にお届けしました。この石けん使用後の排水は、川も海も汚さない環境に優しい品です。環境学習の生きた材料として使っていただけたら嬉しいと企画しました。

どんな感想がいただけるか楽しみにしています。父母の皆さんも「廃油石けん」を話題に、お子様と話し合っていただけることを期待しています。誰でも、どこでも作れる「石けん講座」は12月・1月・2月を除き実施しています。講座へのご参加大歓迎ですのでお気軽にどうぞ！

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会

### 環境の輪を作ろう

協議会では市民の皆様と一緒に5Rを含めた環境問題に取り組もうと考え「環境の輪」作りを展開してまいります。

#### 1. どんなことでも結構です。ご意見をお聞かせください。

エコネットあさか内 朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会あて

(書面又はFAXでお願いします) FAX : 048-486-0223  
※匿名でも結構ですが、できればご住所・電話番号・お名前をご記入願います

#### 2. 協議会への入会は大歓迎です

まずはスタッフ会議を傍聴してみてください。(毎月第2水曜日午前10時30分～3階活動室で行っています)

6月から開始しました「食品ロス回収」事業ですが、当初2階に「配布の品」を設置しましたが、現在は1階に移動しました。思いのほか市民の皆さんは賞味期限を大事にされているようで多くの食材は集まっています。食材は必ず賞味期限1ヶ月以上いません。食材をお願いします。また、ペットフードはご遠慮ください。引き続き善意の提供をお待ちしていますが、今後品物が少ない場合は変更・中止もありますのであしからず」と承ください。また、制服リサイクルは講座日と毎週水曜日に展示しております。必要な方はお出掛けください。無料で引き受け、無料で差し上げております。

(朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会)

協議会からお詫びと訂正